

## 大正～昭和初期の子ども用自転車 「ヒカリ号」(1920～30年)



大正14年に全国の自転車保有台数は400万台(現在は8700万台)を超えました。しかし、子ども用自転車はわずかしかが作られず、おしゃれなデザインで軽く、ブレーキなどの安全性にも優れている現代の子ども用とはまったく違ったものでした。

この補助輪付自転車は18インチの大きさで、タイヤは固いゴムの塊で出来ているので、パンクすることはありません。またペダルを逆回転させても後輪が空回りできないので、ペダルを逆回転させることでブレーキをかけます。このため、ハンドルにはブレーキレバーが付いていません。

さらに、サドルは革製、ペダルはゴム製ですがその他はほとんどが鉄製のため、重さが15kgと子どもが利用するには重い自転車です。

自転車文化センター 谷田貝一男